

提言書（たたき台）に対する意見

三回にわたる議論に参加させていただく中で、少子化という複雑かつ広範な課題について、各分野の専門家の皆様から、問題の本質、国における動向、他自治体における先進的な取組など、多角的なお話を伺うことができ、大変多くの示唆を得ることができました。また、各委員の意見や見解を丁寧に整理され、提言書（たたき台）として取りまとめてくださった福山市事務局の皆様には、心よりお礼申し上げます。

提示されております提言書（たたき台）の内容について、全体として異存はございませんが、市民に対するメッセージの伝え方という観点から、1点意見を申し上げます。

○意見

本提言書では、少子化対策という市民生活全般に関わる幅広い課題を取り上げ、各専門家の意見を踏まえながら、現状認識から施策の方向性、さらには施策の進め方に至るまで、体系的かつ丁寧に整理されていると受け止めています。一方で、論点が多岐にわたるがゆえに、本会議としてとりわけ市民に伝えたい核心部分が、やや見えにくくなっているようにも感じております。

会議設置当初から必ずしも明確であったわけではありませんが、これまでの議論を通じて各委員から示された提案や意見には、市民一人ひとりの「選択肢を広げること」、「自ら選択できる環境を整えること」、そして、「選択した生き方や暮らし方を社会として支援すること」が共通して根底にあったように思います。そうした取組を積み重ねることで福山の魅力を高め、結果として「福山を選んでもらう」ことにつながる、という点が、本会議に通底する考え方ではないでしょうか。

つきましては、p.5の「したがって～」に続く段落に示されているエッセンスを、p.1の「第1章 はじめに」の結び、あるいはp.4「第3章1 基本的な考え方」の冒頭部分に位置づけ、その考え方の下に各論点が整理される構成とすることで、本提言が市民に伝えようとするメッセージが、より明確になるのではないかと考えます。

提言書のとりまとめは座長に一任します。      (名前) 足立 文